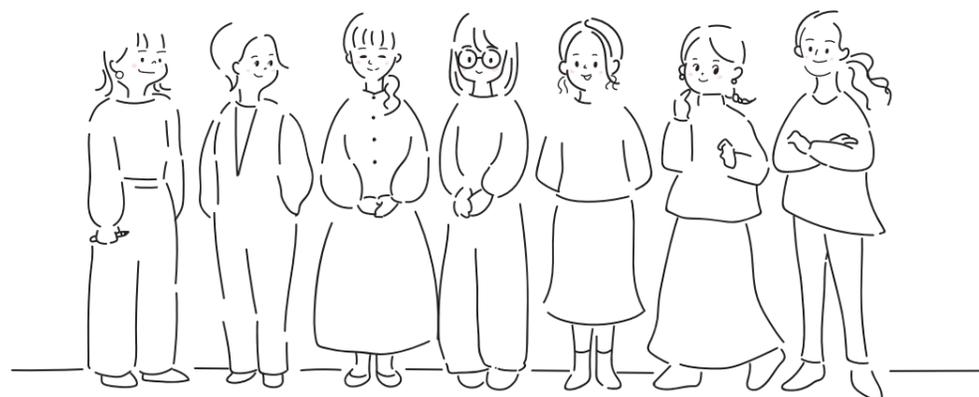


名 称 一般社団法人 tenten
所 在 地 〒960-8041 福島県福島市大町2-18石屋小路ビル2F
代表理事 藤本菜月
連 絡 先 TEL 024-529-5895
FAX 024-529-5896
mail info.tenten.fukushima@gmail.com
WEBサイト <https://tentent.info/>
設 立 2020年10月8日



一般社団法人 tenten
団体概要



tentenスタッフ一同

2024年4月版

目次

はじめに	1
転入者に関わるデータ、悩み	2
ビジョン・ミッション、事業概要	3
事業概要詳細	4~7
ロジックモデル	8~9

はじめに

友達もいない、知り合いもいない、土地勘もない。知らない土地に住むのは楽しみでもありますが、不安も募ります。私は石川県出身。国家公務員として東京で就職し、そこで出会った福島県出身の人と結婚。夫のUターンを機に退職し、福島県へ転入しました。一番初めに住んだのは南会津町で、その後、夫の仕事の関係で県内転勤をこれまで3回経験しています。

転入したばかりの私の状況を表す言葉は「孤独」と「焦り」。誰一人として知り合いがおらず孤独そのものでした。ペーパードライバーだった私は一人で遠出する勇気もなく、毎日家とスーパーの往復。話す相手は夫だけという日々が続きました。また、転勤を控えた状況では定職に就くことができず、働きたい、何かをやりたい、という思いを実現することができず、これから福島でどうやって生きていけばいいんだろうと、とにかく焦っていました。

しかし、あるご夫婦との出会いをきっかけに、地域の方との交流の機会を作っていただき、夫を介さない自分の知り合いができ、さらには居場所ができたことで、私にとって南会津は特別な場所となりました。南会津を離れて10年以上経った今でも交流は続いています。

近年、福島県は移住・転入者が増えていると報道からも聞くようになりました。そして県が移住者として把握している以上の人数の方が福島県に転入しています。その中には、あの頃の私のように孤独や焦りに悩んでいる方や、地域の事をもっと知りたいと思っている方がいます。そういった移住・転入者に向けて、南会津で出会ったご夫婦のような地域との懸け橋となるサポートがあれば、福島県を好きになって、これまで以上に楽しく生活できる人が増えるはずですよ。

また、特に女性には、高いスキルや経歴、働きたいという意欲があるにも関わらず、転入を機に一旦キャリアをリセットしたことや子育てなどの理由で、福島で働くことを諦めている方もいます。人口減少、労働力不足、女性活躍が謳われる地方社会で、このような女性達が活躍できる多様な働き方の選択肢を増やすことも必要だと感じています。

福島で地域や社会と繋がり、自分らしくいきいきと生活する。そんな人が増えれば間違いなく福島は元気になります。転入した人には「福島に来てよかった」、地域の人からは「あの人が福島に来てくれてよかった」という言葉がたくさん聞こえる福島になること願い、今はまだ眠っている転入者の力を引き出し、地域とwin-winの関係を構築していきます。

代表理事 藤本 菜月

プロフィール

1980年石川県小松市生まれ。名古屋大学農学部の果樹園芸学ゼミで桃の葉について研究。卒業後、農林水産省で4年9か月勤務。農業改良資金、経営構造改善事業、農地法関連業務、国際協力業務等に携わる。結婚を機に退職し、夫のUターンに伴い2007年に福島県へ移住。県内転勤族の夫についてこれまで県内4カ所(南会津町、喜多方市、須賀川市、福島市)で生活する。2児の母親。



tenten という名前に込めた思い



福島に転入したばかりのあの頃の私にとって「転(ten)入」「転(ten)勤」というワードはネガティブワードでした。それらによって感じた孤独・不安・焦り。しかし、その辛い時間を過ぎ、経験したからこそ同じ境遇の女性たちの課題が見えてきました。福島に転入して15年以上が経過し、地域とのつながりも徐々にできてきた今、今の私ならそういった女性達が暮らしやすい福島を作れるのではないかと、思いを持って始めた活動です。活動を始めて、たくさんの女性達の笑顔を見ることができ、またそういった女性達のパワーも感じることができたことで、私にとって「転入」「転勤」はポジティブワードに変わりました。今は女性をメインターゲットに「転入」「転勤」に関わる人が皆、福島で楽しく暮らせる、そんな活動に少しずつ変化してきています。

福島県への県外からの転入者数(令和4年)

29,149人

出典:福島県現住人口調査年報

福島県への移住者数(令和4年)

2,832人(1,964世帯)

出典:福島県企画調整部
ふくしまぐらし推進課調べ

※移住者には「転勤」「進学」による転入者は含まれない

県で把握している移住者の
約10倍の人が
転入している。

転入者の県外/県内移動者数(令和4年)

出典:福島県現住人口調査年報

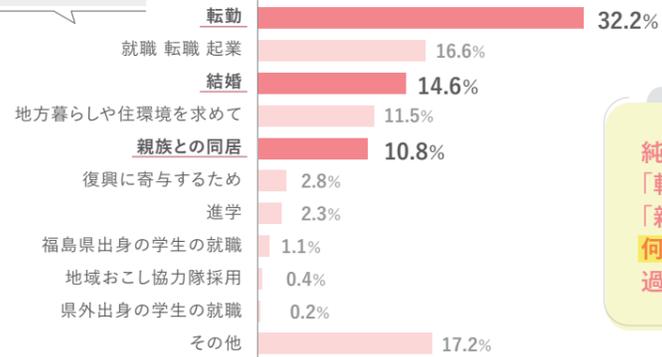
県外からの転入 29,149人(54%)

県内移動 24,409人(46%)

移住者として把握されない
県内移動者が転入者の約半数を
占めている

転入した理由

出典:平成30年度福島県UIターン実態調査 ※複数回答可



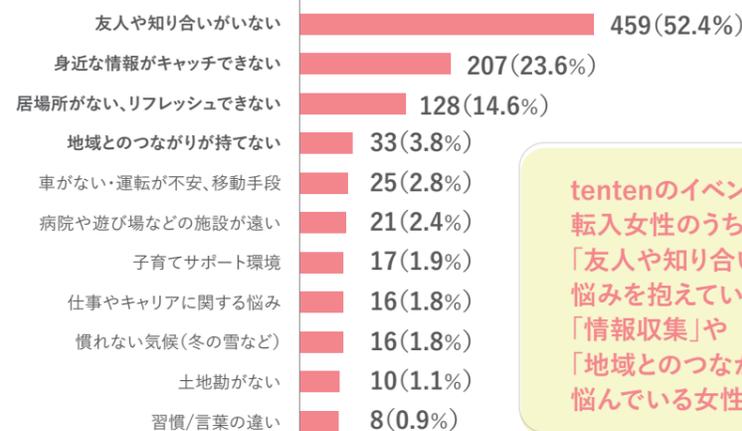
純粋な移住ではなく、
「転勤」や「結婚」
「親族との同居」など、
何か理由があって転入する人が
過半数を占めている。

tentenの考察

移住・定住サポートを受けていない転入者が数多く存在しているのではないかと

転入女性の悩み

tentenのイベントに参加してくれた転入女性(県内移動者も含む)のべ876人に対するアンケート(複数回答可)



tentenのイベントに参加してくれた
転入女性のうち約半数が
「友人や知り合いがいない」事に
悩みを抱えている。
「情報収集」や
「地域とのつながりが持てない」事にも
悩んでいる女性も多い

Vision

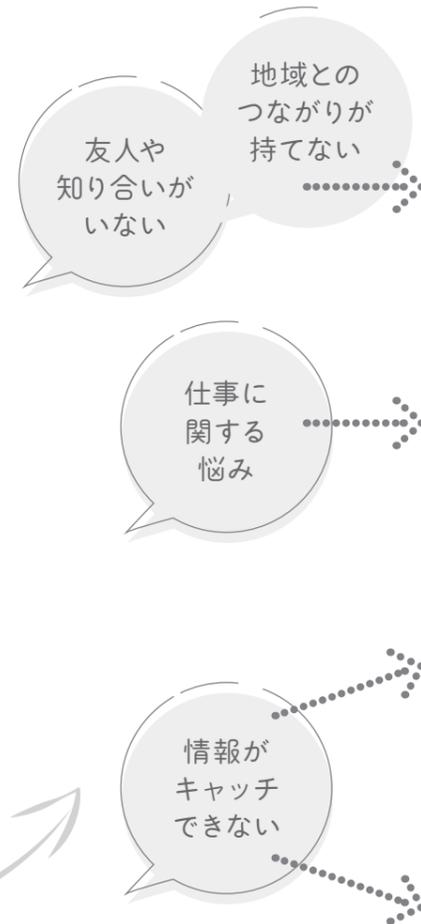
転入者が地域や
社会とつながり、
いきいきと自分らしく
暮らせる社会へ

Mission

転入者の
悩みを解消しつつ、
その強みを活かして、
地域とwin-winの
関係を構築する

事業概要

転入者の悩みやニーズに対応した取り組みを行っています



① 仲間や地域とつながる
キッカケづくり

- 転入女性の座談会「tenten cafe」の開催
- 地域素材を使った「WELCOMEワークショップ」や「フィールドワーク」の開催
- 地域を知り、まちの人とつながるための街歩きツアー「まちとつながる旅」の開催



② 自分らしく働くキッカケづくり

- 在宅ワークの受託
- お仕事マッチング
- 地域資源を活かした雑貨ブランドの運営



③ 暮らしの情報発信

- 転入女性目線で福島の暮らしの情報を発信するWEBメディア「tenten fukushima」の運営
- 一目でわかる地域名マップ「tenten map」の制作



④ 情報発信の場づくり

- 県産品ギフトショップ兼移住情報ステーション「ent」のプロデュース管理



⑤ コミュニティづくり

- SNSコミュニティ (Facebook非公開グループ・公式LINE)の運営

⑥ 個別のフォローアップ

- 人や場所の紹介・引き合わせ、相談に乗る
- 既存イベントやサービスの紹介等

① 仲間や地域とつながるキッカケづくり

移住・転入（Uターン含む）して友人・知人が欲しい方や地域情報が欲しい方、福島のことを知りたい方のために、仲間づくりや情報交換をする場、地域の「人」「素材」「お店」などを知る機会を作っています。

同じ転入者でもあるスタッフがファシリテーターとして入り、参加者の気持ちに共感し、知りたいこと話したいことを引き出し必要な情報を提供しています。また参加者同士が繋がりやすい環境作りも心がけています。



転入女性同士の仲間づくりと情報交換を目的にした座談会。毎回6～10名を募集。インターネットに掲載されていないような病院・幼稚園/保育園/学童・塾・グルメ情報などの地域情報を交換。似た境遇の参加者がそれぞれ持つ情報や経験をシェアすることで、生活や仕事における悩みの解決の糸口が見つかる場になっています。参加者のなかには、「ママ」や「妻」という立場ではなく「自分」としてつながる場がほしいというニーズも多く、お子様連れNGの「大人会」も開催。



福島の素材を活かしたワークショップでは手を動かしながら交流することで、福島のことを楽しく学びながら仲間づくりを行います。暮らしがさらに豊かになる場所を訪れるフィールドワークは家族単位で参加可能とし、より気軽に交流の場に出るキッカケとしています。講師は地域で活動するキーパーソンに依頼。参加者がキーパーソンと繋がるキッカケを作ることで、より地域の情報を得やすくしています。

ワークショップ例

- 伊達市産直売所野菜でパスタ作り
- 二本松の菊でフラワーアレンジメント
- 川俣産小麦とシャモを使ったピザ作り



住んでいる地域のコナな魅力を知ってもらうためのまち歩きツアー。一人ではなかなか勇気が出ないけど、みんなと一緒になら入ってみたい！というお店やスポットを案内します。地域とつながることで自分の居場所ができ、より地域に愛着を持った暮らしをしてもらうキッカケを作ります。そこから地域活動に参加したり、地域で買い物をしたり、誰かを連れてきたりしてくれる人が増えることで地域活性にも繋がりたいと考えています。

※「まちとつながる旅」は全国の転入者を支援する（一社）TENKIN-LABのプログラムです。tentenではTENKIN-LABの協力を得て実施しています。

② 自分らしく働くキッカケづくり

▶ 在宅ワークの受託

スキルと職歴、様々な経験、そして何より働きたいと意欲を持った転入女性のうち、転勤や子育て、介護などの理由で外で働きづらい女性たちに対し、企業から在宅ワークを受託し、提供。時間と場所にとらわれない働き方を提供しています。



Webライター講座を受講し、執筆経験を積んだtentenライターがライティングします。

- 実績
- 福島県移住促進ポータルサイト「ふくしまぐらし。」Instagram記事作成
 - 福島県女性活躍ポータルサイト「キラッとふくしま」インタビュー記事作成
 - 福島民報情報ナビTime内コラム「転入女性のtentenだより」掲載(月1回)
 - アポロガス広報誌「せっかくどーも」コラム

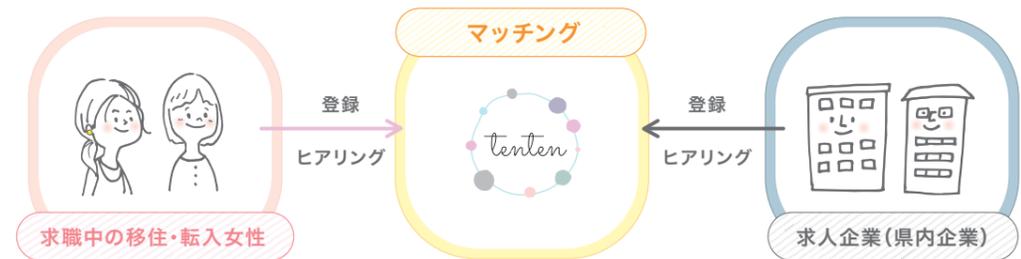


在宅ワーク 希望者をtentenで募り、企業との間に立って契約や研修のサポートを行います。

- 実績
- マンション等の間取り図を専用ソフトを使ってデータ化 → 在宅ワーカー4名(2024.4現在)
依頼元: (株)ハウスコム(東京都)
 - 建築積算の計算業務 → 在宅ワーカー2名(2024.3現在)
依頼元: (有)積建築工務(大阪府)

▶ お仕事探しマッチング ※2023.11に有料職業紹介業の許認可取得(許可番号:07_ユ_300297)

転入を機に離職し、新しく転入した福島で仕事を探す転入女性に登録してもらい、女性目線やヨソモノ目線を求める福島県内の企業求人のマッチングを行います。転入女性、企業両方から丁寧にヒアリングを行い、両者から信頼されるマッチングを心がけています。



▶ 地域資源を活用したオリジナル物産ブランドの展開

他県の方に紹介したくなるような福島の地域資源を活用した商品開発を、よそもの目線、女性目線、母親目線で行っています。商品の作り手には転勤族や子育て中の方などの転入女性になっていただき、地域や社会と繋がるきっかけを作っています。

bel * fonte
fukushima



会津木綿や尾瀬の鹿革を使ったお土産ブランド

はとはれのひ
はははのはなし
hahaha

会津木綿と刺し子を取り入れた親子リンクコーデブランド



3 暮らしの情報発信

▶ 福島の暮らしの情報を発信するWEBメディア「tenten fukushima」の運営

観光情報ではなく転入女性目線で「転入前に知りたかった情報」・「転入後の福島の暮らしが楽しくなる情報」・「実際に福島に転入した女性へのインタビュー」などリアルな暮らしの情報を発信しています。転入女性から独自にライター（tentenライター）を養成し、2024年4月現在9名のライターが交代で記事を執筆しています。tentenライターは、ライター講座でWebライティングの基礎的な知識を習得しtenten fukushimaでOJT（オンザジョブトレーニング）を積みます。



記事の例(閲覧数上位のもの)

- 寒冷地ビギナー必読！福島の冬の運転で知っておきたい4つのポイント
- 毎日の買い物はここで決まり！福島市の人気スーパー特集
- 運転代行ってどうやって使うの？車を使って飲みに行きたいときは代行を活用しよう！



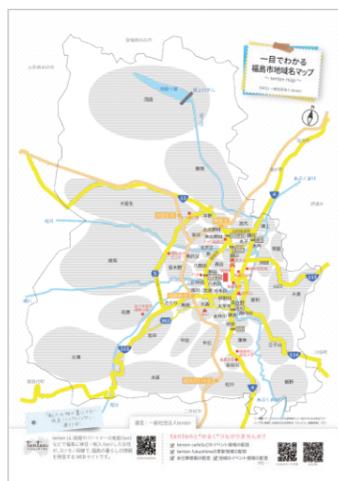
ライター講座を実施して、基本的な知識を身につけてもらいます。



tentenライターのメンバー

▶ 一目でわかる地域名マップ「tenten map」の制作

tenten mapは日常会話で使われる地域名、そして主要な道路、河川、ランドマーク、交差点をざっくりとA4・1枚にまとめた地図。初めての土地は地理が全く分かりませんが、tenten mapを見ると、大体の地理を把握して、土地勘を掴むことができます。土地勘を掴めると、生活しやすさが格段にアップします。転入者である私たち自身がこういう地図が欲しかったというものを形にしました。2024年4月時点で、福島市版、郡山版、白河・西郷版、会津若松版のtenten mapがあります。



▲ 福島市版



▲ 郡山版



▲ 白河・西郷版

4 情報発信の場づくり

▶ 県産品ギフトショップ 兼 移住情報ステーション「ent」のプロデュース・管理

福島を知る入口(entrance)として、福島の暮らしの中で生まれた商品を取り扱った福島の新しいギフトショップ「ent」を2021年9月にオープンさせ、プロデュースと管理を行っています。ヨソモノ・女性目線を活かして、思わず県外の家族や知人にあげたいような福島県内の洗練された商品を販売し、県産品の情報発信をしています。また、転入女性がいいつでもこられる場所として福島県東北地方振興局の「ふくしま移住情報ステーション」にも登録し、気軽に福島の情報を入手できる場でもあります。スタッフも全員転入女性なので、気軽にコミュニケーションを取ることができます。



Instagramにて情報随時更新！(フォロワー数2,935人/2024年3月現在) @ent.fukushima

5 コミュニティづくり

▶ SNSによる「ふくしま転入女性コミュニティ」の運営・管理

転入女性たち同士、また転入女性とtentenスタッフがゆるく繋がりを持ち続けられるツールとしてSNSコミュニティ(Facebook非公開グループと公式LINE)を開設し管理しています。tenten cafeなどのイベント情報、tenten fukushimaの更新情報、暮らしが楽しくなるイベント情報、お仕事の求人情報などを発信。tentenスタッフとも気軽にメッセージをやりとりできる環境を作っています。



登録者数(2024年3月現在)
のべ900人

Facebook非公開グループ 421人
公式LINE 479人



6 個別のフォローアップ

転入女性の悩みや新天地でチャレンジしたいことなど個別に相談に乗り、地域の適した人や場所を紹介し、引き合わせを行ったり、既存サービスの紹介などを行っています。転入女性が福島でやりたいことを実現し、地域プレーヤーになる過程に、想いを理解し共感しながら、きめ細やかに寄り添います。

フォローアップ例(1)

子供向け英語リトミック教室を転入前の地で開校していた方が、新たに福島で開校したいが会場が見つけれないと相談を受け、地域の子育て支援団体を紹介。その団体が管理する施設で教室の開校が決定。

フォローアップ例(2)

宮城県出身のイラストレーターの方が、福島で防災をテーマにしたイラストの展示会を開催することが決定。その一環で防災ワークショップの実施について相談を受け、女性向けの防災ワークショップとして共催することに。告知などイベント開催のノウハウを活かしてフォロー。

転入女性の変化 と tenten事業の関係性

転入女性の変化

tenten事業

友人・知人がいない 孤独
 情報が入らない土地で生活する苦勞
 新生活のリズムを作るので精一杯
 仕事に対する悩みを抱えている

tentenを知る

知り合いができる
 仲間とつながる共感し合う
 地域のことを知る

居場所ができる
 仲間から刺激を受ける
 福島に興味を持つようになる

心安定する
 福島での暮らしを楽しむようになる
 福島のいい所を探すようになる

行動を起こす
 ・仕事 ・tenten地域サポーター ・tentenライター
 ・情報発信 ・プロジェクトの立ち上げ
 ・外出(イベントやお店など) etc

地域に愛着を持つ
 役割ができる
 つながりがどんどん広がる

定住
 地域の一員として自分らしくいきいきと生活する
 地域プレーヤー
 ポジティブ県民

転出
 何らかの形で福島との関りを持ち続ける
 福島の現状や良さを転出先で伝える
 関係人口
 リアルな情報発信者

3 暮らしの情報発信 「tenten fukushima」「tenten map」
 4 情報発信の場づくり 「ent」

1 仲間や地域とつながるキッカケづくり
 「tenten cafe」「WELCOMEワークショップ」「フィールドワーク」「まちとつながる旅」

3 暮らしの情報発信 「tenten fukushima」「tenten map」
 4 情報発信の場づくり 「ent」

2 自分らしく働くキッカケづくり
 ・在宅ワークの受託
 ・お仕事マッチング
 ・地域資源を活かした雑貨ブランドの運営

5 コミュニティづくり (FB非公開グループ・公式LINE)
 6 個別のフォローアップ
 人や場所の紹介・引き合わせ、相談に乗る
 既存イベントやサービスの紹介等
 負担なくゆるくつながり続ける
 次のステップへ寄り添う

入口となる場をつくる

つながるキッカケをつくる

暮らしが楽しくなる情報を届ける

自分らしく働く後押しをする